

+ Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学

第9回

大学祭

第九回大学祭が六月二十三日(土)、二十四(日)の両日、本学構内で催されました。「大楽祭〜愛をこの手で〜」というテーマの1001人の来場者がありました。

今年の大学祭は、大きくて楽しい祭りになりたい、できるだけ多くの人に楽しんでもらいたいとの思いが、「大楽祭〜愛をこの手で〜」というテーマに込められていました。

自分の健康状態を確認できるよい機会だと市民の方からも好評なヘルスチェック。今年も多くの方が集まり、血圧測定、骨密度、動体視力等を測定しました。



看護体験教室では、断水による水節約のため手浴・足浴は中止となりましたが、救急法や車いす・老人の疑似体験等を実践し、日頃の学習成果を発揮できました。ピアッ子サイクルからは、性病・避妊に関する講義(性教育)が行なわれ、市内高校生も耳を傾けていました。各種模擬店では、まず手

弁当、風景写真やジャズを鑑賞しながら軽食できるJAZZ喫茶等。これらの飲食店は、食材やカロリー、塩分等を計算して糖尿や腎臓病の方にも提供できるよう看護大ならではの工夫がこらされています。その他癒しの気分がマッサージをうけられるアロマカフェ、障害者自立支援法をテーマに、作業所とボランティア部共同での出店など、いずれも好評で、屋内外の屋台と共に初日は午後二時には完売する勢いでした。



今年度新しく大学院修了生による「看護よろず相談」が催され、約二十名前後の方々が相談コーナーを活用していました。その他シンポジウム「精神障害者への理解」講演、野外ステージでは、合唱団・吹奏楽部・音楽部ハンドベル演奏・ライブなどで盛り上がり、駐車場では薄荷童子のよさこいが披露され、さらに献血活動・チャリティーなど看護大生らしき若者の勢いで楽しく祭りを盛り上げていました。残念ながら北見地区断水のため、二日目は予定を繰り上げ、午後一時には終了しました。全国的な麻疹の流行など度重なるアクシデントで来場者数は昨年よりダウンしましたが、そのような中でも、看護の単科大学ならではのまとまりと、熱気と力強さを感じた二日間でした。実行委員をはじめとする関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。

領域別看護学実習を 振り返って

三年生後期から四年生にかけて行われる領域別看護学実習は、昨年十月から今年八月までの期間に成人(急性期・慢性期)、老年、母性、小児、精神、地域の領域で行われています。実習場所は北見赤十字病院をはじめとし、網走市、清水町、置戸町など幅広い地域で行われています。これらの実習は、講義で学んだ理論や知識を実践の場で統合するために必要な専門科目であり、基礎看護学実習を基盤にして各看護学実習の目的・目標に沿ってすすめてられています。今回、実習期間も後半に入り、残り数日となつて

学部長挨拶



学部長
大西章恵

このたびは二ッ森栄子先生の後任として学部長に就任致しました。開校以来これまでの諸先生たちのご尽力を受け継ぎ頑張つていきたいと思つております。よろしくお願ひ申し上げます。赤十字の伝統を大切にしつつ新たなことに挑戦していく、そんな活気ある大学づくりをめざしていきたい

いと考えております。

大学における主人公は学生です。学生自身が主体的に学び、自分たちの思いを伝え合える、そして目標を見出し行動していく、そんな空気がつくつていきたいものです。また、単科大学の良さは学生と教員が密接に関わることができ、共に刺激し合いながら成長して行けることだと思ひます。その良さを大切にして、「入学して良かった」と言つてもらえる大学にしたいと思つております。

看護学実習について



4年生
小堺のぞみ

三年生後期から開始した看護学実習も残すところ後一ヶ月弱となりました。実習では分娩や手術など、講義では体験できないことを直に見ることが出来、そこでの看護師の役割を学ぶ良い機会ともなりました。

やはり毎日の記録は大変ですが、振り返りをしっかり行うことで翌日の看護計画が明確となり、患者様へのケアをより良いものへと繋げることが出来ます。そして患者様の反応を直に感じることもでき、講義では学びきれないことも実践を通すことで、より理解が深まると感じました。また、初めて行う援助もたくさん出てきますが、実践することにより自分の看護技術を洗練させる良い機会となります。何事も失敗を恐れずチャレンジし、指導を頂くことにより自分の知識や技術の向上へと繋がっていると感ずいています。長期間の実習となるため辛いことも多々ありますが、先生やグループメンバーに支えられながら今まで乗り越えてくることができまし



た。今後も今まで学んだことを十分に活かし、みんなと協力しながら残りの実習を頑張りたいと思います。



4年生
小椋圭太

学びの多い看護学実習

看護学実習の初めの頃は、対象者とのように話をすすめていくのが戸惑い、対象者とのコミュニケーションに悩みました。看護をする上で情報収集はとても大切なのですが、情報収集するためだけの一方的な会話にならないように配慮しながら、必要な情報を短時間で意図的に収集することの難しさをとて感じました。また、実習場では各領域の専門的な知識が問われます。実習開始前に事前学習をしておくことで対象者の状態となりがりやすく、対象者をより理解することができ、実習に取り組みやすいく思います。ですから、実習前にはその領域に関する知識をしっかりと得て臨むことが大事です。これから実習にいく後輩に特に伝えたいことは、対象者が何を求めどのような状態を目指しているかという対象者のニーズを把握することで、学生自身が対象者に耳を傾け、いつでも受け入れようとする姿勢を示すことが重要だと考えます。

自治会コーナー

スポーツ大会開催

二年生 井上卓哉

学年間の友好関係を深め、そして日頃の運動不足を解消しようという事で、自治会が主体で開催するスポーツ大会。今年は去る五月十九日土曜日に、「ドッヂボールをやりましたよ」と参加を呼びかけたところ、三十六人が集まり、賑やかな開催となりました。いざ試合が始まると皆の目の輝きが変わり、全力でボールを投げるさま、仲間にボールを託すさまと、負けまいとボールをキャッチするさま、必死にボールを避けるさまと、チームが一致団結して本気で勝ちを狙いはじめ、白熱した大会となりました。スポーツ大会は毎年、この時期に行つていきます。来年も多くの参加者が集う盛況な大会になるよう企画を考えていますので、是非参加して下さい。



松木光子名誉学長

ナイチンゲール記章受章



名誉学長
松木光子

経歴

昭和三十年松山赤十字高等看護学院を卒業し、看護婦免許を取得され、昭和五十年に神戸女学院大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了。平成三年に金沢大学より医学博士を得られました。

大阪大学医学部保健学科教授、福井医科大学医学部看護学科教授を経て、平成十一年本学の初代学長に就任されました。平成十五年には本学大学院看護学研究科研究科の初代研究科長に就任され、平成十九年本学の名誉学長に就任されました。平成十年に北米看護診断学会より国際賞・貢献賞を、平成十六年には日本看護診断学会より功労賞を受賞されました。

第四十一回 フロレンス・ナイチンゲール 記念授与式に参加して

このたび、松木光子名誉学長が第四十一回フロレンス・ナイチンゲール記章を受章されました。その授与式が七月九日(月)に、

名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁秋篠宮妃殿下、同常陸宮妃殿下、同高円宮妃殿下のご臨席のもと開催され、石井学長、大西学部長、上杉事務局長、四年次生六名、卒業



生七名とともに出席いたしました。式次第として、成田赤十字看護専門学校の看護学生による厳かなキヤンドルサービスから始まり、受章者の紹介、章記並びに記章の授与、名誉総裁皇后陛下のおことば、来賓祝辞などがありました。

フロレンス・ナイチンゲール記章は、看護師が受ける最高の名誉であり、この記章は、各国赤十字社・赤新月社及び関連医療施設や看護教育施設において、紛争や災害の犠牲者に対し偉大な勇氣を持って献身的に活動した看護師、また公衆衛生や看護教育の分野で顕著な活動あるいは創造的・先駆的貢献を果たした看護師たちに対して賞辞を贈るものです。第四十一回は、十八か国、三十五名が受章対象で、日本からは三名が受章されましたが、松木光子名誉学長



記章



がナイチンゲール記章を受章した理由は、論文の執筆、書籍の翻訳を通して看護診断を日本に紹介し、さらに看護診断の普及につとめ、日本で看護診断が定着するための土壌作りをしたことにありました。改めて松木光子名誉学長が臨床や教育に貢献されたことの重みについて感じました。



記章(裏)

念講演が行われ、松木光子名誉学長は、「私が歩んできた看護の道程」というテーマでご自身のこれまでの看護の道について話されていました。その中で「学生は可能性をもっており、成長していく者である。それが教育のおもしろみである。」と話されています。これからの看護の実践者を育てていきたいと強く思いました。また名誉学長は学生に向けて「興味ある課題をやり通してほしい。」とも話されましたが、看護を学ぶ者、看護実践に関わっている者、そして看護実践者の育成に関わる者、看護に関わる全ての者へのメッセージだと思ひ、帰学いたしました。今回、学生、卒業生共々、このような貴重な体験ができましたことに、感謝しております。

執筆者



基礎看護学講座
教授
休波茂子

松木先生とは基礎看護学講座で八年間ご一緒にお仕事をさせていただき、多くの学びを得たことを幸せに思います。今回の受章を心よりお祝い申し上げます。

新任教員紹介



成人・老年看護学講座
講師
板垣喜代子

慢性期の成人看護学では、生活習慣病をはじめ複数の病気と重複する障害をもつ成人を対象にしています。臨床実習では、学生は受持患者様の疾患と障害の理解とともに、その方の価値観やこれまでの人生も考慮してアセスメントを行い、看護計画を立てて実施できるような指導します。時には大きな病状変化や早めの転院、退院もあるため、私も学生とともに臨床で鍛えられながらも、新しい時代のリハビリテーション看護、がん看護を模索する毎日です。



基礎看護学講座
助手
檜山明子

これまで看護師として働いてきたため、教育に携わるのは初めてです。今は、演習での学生との関わりの中で、看護を学ぶ為には必死にならなければならないのを見て、その若さと可能性に関わる事をとて嬉しく思います。学生には、それぞれに自分なりの看護

観をもった生き生きとした看護師になってほしいと思います。その短くも貴重な大学での時間が有意義であるように微力ながら努めていきたいと思えます。よろしくお願いたします。



成人・老年看護学講座
助手
増田由実子

六月より老年看護学の助手になりました。私は本学の一期生で、今年四月まで市立釧路総合病院心臓外科・眼科病棟で勤務していました。急性期病棟でしたが高齢の方も多く、そのような方ほど看護の目と手を必要としていることがわかりました。現在実習指導を通してその方々が本場に必要としていることは何なのかと考える機会を得て、臨床とは違う角度から看護に携わっていきけることが新鮮で新たな学びとなっています。今後はこの学びを看護研究にも活かしていければと考えています。

教職員人事

【採用】

平成十九年六月一日付け
助手 増田由実子

日本赤十字北海道看護大学
看護開発センター開設記念
講演会のお知らせ

日本赤十字北海道看護大学看護開発センターの開設を記念して講演会が開かれます。

日時 平成19年9月29日(土) 13:30~
場所 日本赤十字北海道看護大学 講堂
講師 日本赤十字社 事業局国際部
企画課長 中田 晃
演題 「国際的に赤十字をみると
~赤十字のアイデンティティとは~」

赤十字の理念や活動をより深くご理解いただける好機となりますので是非ご来場ください。

夏季の軽装励行

今年も地球温暖化対策及び省エネルギー対策に対応して、六月一日から九月三十日までの期間を、執務中は軽装とし原則ネクタイ、上着を着用しないことにしました。ご理解のほどお願いいたします。

編集後記

六月の北見は麻疹の上陸と突然の断水に見舞われ、はらはらドキドキの連続であったように思います。そんな中でもなんとか大学祭を敢行することができ、教職員も学生にとっても忘れがたい貴重な体験になったのではないのでしょうか。

今回お届けする+ Viva Kango第二十号は、大学祭と松木光子名誉学長のナイチンゲール記事受章とをメイントピックに誌面を組みました。学生達の奮闘ぶり、この大学の礎を創られた名誉学長に思いを馳せながら、目を通して頂けると幸いです。

平成20年度 大学院看護学研究科看護学専攻
修士課程学生募集について

1. 募集人員(女・男)

試験区分	募集人員
1期	6名
2期	若干名

2. 募集専門系(領域)

- 看護管理学系…看護管理学領域
- 実践看護学系…成育看護学領域、急性期看護学領域、地域看護学領域
- 臨床薬理看護学系…臨床薬理看護学領域

3. 入学試験日程

試験区分	出願期間	試験日	合格発表日
1期	平成19年 9月3日(月)~9月19日(水) 出願締切当日の消印有効	平成19年 9月23日(日)	平成19年 9月26日(水) 午後5時
2期	平成20年 2月1日(金)~2月19日(火) 出願締切当日の消印有効	平成20年 2月24日(日)	平成20年 2月26日(火) 午後5時

4. 試験科目

- (1)専門科目(志望する各専門領域に対応する試験科目)
- (2)外国語科目(英語)
- (3)面接

※問い合わせ先: 学生課入試係 (☎0157-66-3311代)

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第20号

発行日/2007年7月31日
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp